



令和8年度 学校だより 7月号

なかお



第480号

令和8年6月25日

発行者 横浜市立中尾小学校

校長 丹野 一郎

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nakao/>

一生の宝となる「釣り方」を身に付ける夏に

校長 丹野 一郎

現在、北中米の地では、サッカーのワールドカップが開催され、世界中が熱い興奮に包まれています。世界の頂点を目指して一瞬一瞬を全力で闘う選手たちの姿は、私たちに大きな感動を与えてくれます。

学校に目を移しますと、先日の「スポーツフェスタ2026(以下スポフェス)」では、多くの保護者・来賓の皆様がご来校され、かがやく「なかおっ子」へ温かい応援を届けていただき、誠にありがとうございました。皆様の拍手や声援に励まされ、子どもたちは一瞬一瞬を全力で駆け抜け、大きな行事を見事に創り上げることができました。

また、近隣の皆様のご理解とご協力、PTAの皆様の温かいご支援にも、職員一同、心より感謝申し上げます。スポフェスを通してひと回り成長したなかおっ子とともに、これからも魅力ある学校づくりに努めてまいりますので、どうぞご期待ください。

スポフェスが終わり、恵みの雨が大地を潤す季節となりました。まもなく7月を迎えます。水泳学習も始まり、本格的な夏の訪れを感じる頃となりました。日本では古くから、7月は「文月(ふみづき)」と呼ばれています。その由来は、七夕に詩歌を奉納したり、書物を夜風にさらしたりする風習にあるとされています。また、稲が大きく育つ「含み月」が語源とする説もあります。

子どもたちにとって7月は、新しい学年での学びが積み重なり、その成果がふくらんでいく時期でもあります。一方で、夏休み前のまとめの月でもあります。4月に立てた目標に向けて努力してきた成果や課題について、夏休み期間中にご家庭でも振り返る時間をもっていただければ幸いです。

ここで一つ、中国の故事を紹介します。

ある少年が空腹のため、川で釣りをしている老人に「魚を一匹ください」と頼みました。しかし老人はそれを断り、こう言いました。「魚を与えれば一時的に空腹は満たされる。しかしまた空腹になるだろう。だから魚の釣り方を教えよう。そうすれば一生食べていくことができる。」

これは「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えよ」ということわざのもとになった話です。この話は、教育の在り方を示すものとも言えます。1年生は学校生活の基礎を学び、6年生はスポフェスやふれあい活動などを通して最高学年としての姿を身に付けてきました。他の学年の子どもたちも含め、この3か月で多くの「釣り方」、すなわち学び方や生き方を身に付けてきました。

子どもたちは本来、挑戦したいという意欲に満ちています。学校で学んだことを日常生活に生かしてほしいと願うのは、ご家庭でも同じことと思います。夏休みまでの残り約3週間、学校でも自分の学びを振り返り、「釣り逃がした魚」にも目を向けながら、しっかりとまとめを行っていきます。ぜひご家庭でも、この3か月の成長についてお子様と話し合っていただければと思います。

あと1か月で夏休みを迎えます。心豊かになる体験を積み、休み明けにはさらに多くの「釣り方」を身に付けたなかおっ子の姿が見られることを楽しみにしています。

本号は夏休み前最後となります。どうぞお子様と充実した時間をお過ごしください。